

オツネトンボ

Sympetma paedisca

アオイトトンボ科



オツネトンボ

名前の由来

「越年トンボ」で、成虫で冬越しすることに由来する。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：越年蜻蛉

形態的特徴

体長34～37mm。オス・メスともに全身淡い褐色のイトトンボである。

類似種：なし。全身淡い褐色のイトトンボはオツネトンボのみ。

生息環境・分布

平地から丘陵の池沼に生息。

域に分布。

分布：中央ヨーロッパ、中央アジア、中国東北部、朝鮮半島に分布。国内分布は、九州北部以北。北海道内では、全

十勝地方では、平地の池沼に生息している。帯広市、池田町、音更町、幕別町、豊頃町、浦幌町内などで確認。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカ、ハエなどの昆虫類やクモ類。クモ類には逆に捕食されることもある。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

成虫は雪の中で越冬し、6月頃に産卵する。産卵は連結したまま行われ、水際植物の水面上に張り出した葉や水に浮かんだ植物の枯れ茎、朽木などに産卵する。産卵後約3ヶ

月で羽化し、成虫はそのまま越冬する。

寿命：幼虫期間約3ヶ月、成虫期間9～10ヶ月。

興味深い話

■成虫で冬越しをすることが特徴のイトトンボである。越冬の詳細な生態はよくわかっていないが、樹皮の裏側や裂け目、窪み、作業小屋や倉庫の中など、建物の中などで越冬していることが知られている。日本には成虫で越冬する

トンボが3種類いるが、北海道にいる種類はこの1種だけである。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するとき水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
卵期・幼虫期						■							
成虫期	■												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993

光俊 東海大学出版会 1988

「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002

「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシタカ